

# アルバイトの経験とキャリア意思決定および将来のキャリア志向 —大学・大学院に在籍する中国人私費留学生を対象に—

黄 美蘭

## 1. 問題の所在と研究目的

日本の外国人労働者数は年々増加傾向にある。厚生労働省（2020）における「外国人雇用状況」の届出状況によると、在留資格別外国人労働者数は「身分に基づく在留資格」（32.1%）が最も多く、次いで、「技能実習」（23.1%）、「資格外活動（留学）」（22.5%）となっている。そのうち、「資格外活動（留学）」に着目すると、在日私費留学生の7割以上がアルバイトに従事しており、大学と大学院に在籍している私費留学生のアルバイト従事率をみると、「学部レベルの研究生・聴講生」（82.4%）、「大学院レベルの研究生」（78.0%）、「学部正規課程」（74.4%）、「大学院修士課程博士前期課程」（66.4%）、「大学院博士課程博士後期課程」（58.0%）の順になっている（日本学生支援機構, 2019）。また、アルバイトの職種として最も多いのは軽労働の「飲食業」（41.9%）で、続いて「営業・販売（コンビニ等）」（28.9%）、「ティーチングアシスタント・リサーチアシスタント」（7.3%）、「翻訳・通訳」（6.7%）、「語学講師」（6.2%）である（日本学生支援機構, 2019）。つまり、在日留学生の多くがアルバイトに従事している現状であり、日本の労働市場における留学生の存在は大きい。

大学や大学院に在籍している中国人私費留学生を対象に、アルバイト活動について調査を行った黄（2015；2018；2020；2021）の一連の研究では、中国人私費留学生は「経済的理由」などの外発的動機づけ、「心理的満足」などの内発的動機づけ、「日本社会・日本人との交流」などの社会的動機づけを持ってアルバイトに従事していることが報告されており、アルバイト活動を通して日本社会や日本人に対する理解を深めたことや自分自身が成長したこと、生活費や学費を得たことを肯定的に捉えていると述べている。また、アルバイトの経験とアルバイト活動を通して得たと認識する肯定感に関しては、「中国語などの語学」を教えた経験がある場合、アルバイト先で学んだことは将来の仕事先で活かせると認識するとしている。中国語など中国人私費留学生が母語を相手に教えることで自己肯定感を獲得し、その自信によってアルバイトの経験が将来の仕事に役に立つと思うなど、自分自身の将来のキャリアについて考えることに繋がるとされている。一方、「中小企業・商社の事務」のアルバイト経験がある場合、生活費が得られたことを肯定的に捉えているとしている。つまり、中国人私費留学生のアルバイト経験に関しては、アルバイトの職種の違いにより、将来のキャリア志向についての捉え方に異なる影響を与えることが予測される。

在日私費留学生を対象にした研究ではないが、西・柳澤（2010）では、日本人大学

<sup>1</sup> 「身分に基づく在留資格」には、「永住者」「日本人の配偶者」「永住者の配偶者等」「定住者」が該当する（厚生労働省, 2020）。

生にとってアルバイトは学生の立場で企業への適応や仕事の方法を学習することができる活動であり、アルバイト先で学んだことが職業選択に影響を及ぼすとしている。また、関口（2010）においても、日本人大学生のアルバイト経験とキャリア形成について、スキル多様性の高いアルバイトに従事しているほど、主体的キャリア行動が高いと述べている。日本語学校に通う中国人私費留学生を対象に、将来のキャリアについて調査した黄（2019）は、中国人私費留学生は将来のキャリアについて、「起業志向」「第三国志向」「将来不透明性」「中国・日本関連企業への就職志向」「日本での就職志向」を持っているとしている。そこでは、将来のキャリアについて「日本での就職志向」がある場合、アルバイト活動を通して「学業へのポジティブな姿勢」を獲得したと捉えやすいことを明らかにしている。また、黄（2018）の調査では、大学や大学院に在籍している中国人男子私費留学生は卒業・修了後のキャリア志向として「日本で起業」「日本で就職」「帰国して就職」を持っており、中国人男子私費留学生の将来のキャリアに対する志向によってアルバイト経験の捉え方が異なるとしている。つまり、将来、「日本で起業」「日本で就職」など、日本との関わりを持ち続けようとする場合は、アルバイトの経験が将来のキャリアにポジティブな影響を及ぼすとしているが、「帰国して就職」など日本との関わりを持つとは考えていない場合は、アルバイトの経験が将来のキャリアに及ぼす影響が少ないとしている。さらに、黄（2021）では、アルバイト活動について、日本語学校と大学や大学院に在籍している中国人私費留学生の比較検討を行っている。そこでは、学部生は日本語学校生に比べてアルバイト活動を通して、将来のキャリアについてより具体的に考えるようになると述べている。このように、中国人私費留学生のアルバイト経験に対する捉え方や将来のキャリアに対する志向、および所属は複合的に関連すると考えられる。

また、大学生が将来の進路を選択したり決定したりする際に、「将来実現させたいこと」と、進路や職業を決めるという活動に関わり合うことができるかどうか不安になるという心理状態を示す「キャリア意思決定」が影響し合うとされている（三保・花井・清水, 2009）。キャリア意思決定は、将来の職業を選択・決定することに関係する心理領域を広く測定することを目的として開発された尺度である（清水・花井, 2007）。大学生にとって、キャリア選択は未知かつ自らの将来を決める重要な課題であるが、多くの大学生は大学卒業後の進路を選択する際にストレスを感じていると言われている。小柴・高橋・根建（2016）では、関東圏内の私立大学に在籍する学生 154 名を対象に、キャリア選択に対する認知的評価や進路意思決定の困難さについて調査を行い、自身のやりたいことを探す傾向にある大学生は、進路を決定する際に、自身の進路先に対する方向性や能力に対して、不安や戸惑いが生じるとしている。また、村越（2011）は、日本語学校に通う中国人学生と韓国人学生の進路選択に関する調査を行い、日本語学校を卒業後の進路を選択するにあたって、中国人学生の特徴として教員から「将来について悩んでいるとき、励ましてもらった」「将来について悩んだり、迷ったとき、助言してもらった」など「心理・指導サポート」を受けたことが「進学や就職の目的や意味を明確にすることができる」などの「将来設計」がしやすいと述べて

いる。つまり、中国人私費留学生在日本で大学や大学院を卒業・修了後、将来の進路を考える際に、それを実現させるにあたって不安や葛藤、戸惑いなど様々な心理状態に陥ることが推測され、将来の進路を選択・決定する過程において留学生と関わりのある人々からのサポートが重要であると考えられる。さらに、キャリア選択の行動は、学年を経るにつれて発達・変化する(花井・清水,2007)ことがある。そのため、中国人私費留学生の所属が将来のキャリア志向に影響を与える可能性も考えられる。日本の高等教育機関に在籍する中国人私費留学生は、日本の大学や大学院などで学業を終え、その後、日本で企業等に就職する傾向が強い(日本学生支援機構,2020)とされているが、中国人私費留学生の将来のキャリア志向について詳細に検討した研究は数少ない。また、中国人私費留学生在将来の職業を選択・決定する際の心理状態について詳細に検討した研究も僅少である。

以上のように、中国人私費留学生在将来の進路を選択・決定し、それを実現させる過程において、日本で経験したアルバイト活動や将来の正規の職業を選択・決定する際の心理状態および中国人私費留学生の所属が影響を与えることが推測できる。中国人私費留学生の将来の職業選択・決定に関する心理状態や将来のキャリア志向について分析することは、大学における留学生のキャリア教育や支援のために有益な参考データを提供できると考えられる。そこで、本研究では大学・大学院に在籍している中国人私費留学生を対象に質問紙調査を行い、来日後経験したアルバイト活動と将来の正規の職業についてのキャリア意思決定および将来のキャリア志向がどのように関連するのかについて明らかにすることを目的とした。なお、本研究では、中国人私費留学生在大学や大学院を卒業・修了後の正規の職業を選択・決定する過程における心理状態を「キャリア意思決定」とし、将来従事しようとする正規の仕事に関する意識を「将来のキャリア志向」とした。研究課題は次の3点である。

研究課題1：中国人私費留学生のキャリア意思決定はどのようなものか

研究課題2：中国人私費留学生の将来のキャリア志向はどのようなものか

研究課題3：中国人私費留学生のアルバイトの経験と所属、キャリア意思決定は将来のキャリア志向にどのような影響を及ぼすのか

## 2. 研究方法

### 2.1 調査方法と分析対象者

2017年10月から12月にかけて、日本の大学・大学院に在籍している中国人留学生を対象に中国語版の質問紙を配布・回収した。その結果、115名から有効な回答が得られた。本研究ではその中で、来日後アルバイトに従事した経験のある中国人私費留学生103名のデータを分析対象とする(表1)。対象者の内訳については、男性44名、女性59名、年齢は18歳~34歳( $M=25.2$ 歳)であった。また、滞日期間については、1年未満2名、1年~5年未満70名、5年以上26名、未回答5名であり、現在の所属は学部36名、博士前期課程48名、博士後期課程19名であった。来日後経験したこと

表1 分析対象者の属性

性別	男性44名、女性59名
年齢	18歳～34歳 ( $M=25.2$ , $SD=2.99$ )
滞日期間	1年未満2名、1年～5年未満70名、5年以上26名、未回答5名 ( $M=3.61$ , $SD=1.76$ )
現在の所属	学部36名、博士前期課程48名、博士後期課程19名
来日後経験したアルバイトの職種 (複数回答)	飲食店・ファーストフードなどの飲食関連66名 (64.1%)、コンビニ・スーパーのレジなどの接客業 61名 (59.2%)、中国語などの語学講師26名 (25.2%)、中小企業や商社などの事務15名 (14.6%)、その他33名 (32.0%)

のあるアルバイトの職種については、「飲食店・ファーストフード店などの飲食関連」66名、「コンビニ・スーパーのレジなどの接客業」61名、「中国語などの語学講師」26名、「中小企業や商社などの事務」15名、「その他」33名であった。

## 2.2 質問紙の構成と分析方法

質問紙は、来日後経験したアルバイトの職種と将来の正規の職業を選択・決定する際の心理状態に関する「キャリア意思決定」、および将来従事したい正規の仕事に関する「将来のキャリア志向」を問う項目と属性を問う項目から構成される。アルバイトの職種については、日本学生支援機構(2016)で行った「平成27年度私費外国人留学生生活実態調査概要」の結果を参考に作成し、複数回答式で回答を求めた。また、キャリア意思決定に関しては、清水・花井(2007)を参考に42項目を作成した。さらに、将来のキャリア志向に関しては、加賀美(2008)と岡村(2013)を参考に12項目を作成した。質問項目については、それぞれ「全く当てはまらない～非常に当てはまる」の5件法を採用した。質問紙は日本語で作成し、その後中国語に翻訳した。翻訳文の正確性を客観的に検証するためにバックトランスレーション法を用い、予備調査でその適切さが確かめられた。

集まったデータはSPSSにより分析を行なった。キャリア意思決定、将来のキャリア志向の因子構造については、主因子法・プロマックス回転による探索的因子分析を行なった。また、アルバイトの経験と所属、将来の職業選択・決定に関する心理状態が将来従事したい正規の仕事に与える影響を調べるために、アルバイトの経験と所属、キャリア意思決定を独立変数、将来のキャリア志向を従属変数として、ステップワイズ法による重回帰分析を行った。

## 3. 結果

### 3.1 キャリア意思決定に関する因子分析の結果

中国人私費留学生のキャリア意思決定の構造を明らかにするために、因子分析を行なった。因子負荷が低い項目(40以下)や複数の因子にまたがって高い負荷量を示す項目を削除した結果、6因子が抽出された(表2)。

第1因子は「将来、職業にかかわらず好きなことをしていきたい」「将来の職業のことを真剣に考えたことがない」などの8項目からなり、将来の職業よりも自分の好きなこ

表2 キャリア意思決定の因子分析結果

		I	II	III	IV	V	VI	項目 平均値	項目 標準偏差	因子平均値 (標準偏差)
第I因子 モラトリアム・逃避 ( $\alpha=.92$ )	将来、職業につかず、好きなことをしたい	.87	-.08	.08	.12	-.17	-.04	2.15	1.22	2.21 (0.98)
	就職しないでも今の状態であらいたいと思う	.84	.10	.16	-.19	-.05	-.17	2.19	1.29	
	将来の職業のことを真剣に考えたことがない	.82	.00	-.15	-.04	.12	.13	2.12	1.14	
	何もせずに、今のままでいたい	.75	.09	.24	-.23	.07	-.17	1.94	1.17	
	将来の職業については、考える興味が全くない	.69	.04	-.17	-.15	.07	.17	2.18	1.14	
	職業のことなど考えず、自分の好きなことに集中していたい	.67	-.05	-.18	.09	.12	.20	2.42	1.19	
第II因子 身近な他者との 相談希望 ( $\alpha=.94$ )	いつまでも仕事をしないで遊んで暮らせたいのと思う	.59	.07	.08	.09	-.03	-.05	2.56	1.51	2.55 (1.12)
	今までもあまり職業のことをまじめに考えたことがない	.56	.02	-.10	.28	.06	.07	2.16	1.12	
	職業選択の問題は重要なことなので、親などと相談したい	.02	.94	.03	.07	-.16	-.12	2.61	1.32	
	将来の職業について、親などと相談したい	.00	.88	.00	-.09	-.04	.02	2.67	1.29	
	自分一人で何かを決めた経験が少ないので、親などにアドバイスを求めたい	-.05	.81	-.07	-.02	.24	.01	2.54	1.27	
	自分だけでは、職業は決定できないので、親などと相談したい	.04	.80	-.02	.07	.01	.02	2.34	1.22	
第III因子 不安 ( $\alpha=.90$ )	自分一人で何かを決めた経験が少ないので、将来の職業について親などと相談 今までも重要な問題は親などと相談してきたので、職業選択の問題でも相談し	-.02	.79	.03	-.03	.08	-.05	2.64	1.27	2.99 (0.97)
	将来、職業を決めることがうまくいかどうか不安である	.09	-.17	.79	.12	-.01	-.02	3.51	1.26	
	希望する職業への準備が十分であるのかどうか不安である	-.16	.12	.77	-.04	-.01	.18	3.23	1.16	
	何かの影響で希望する職業につくことができないのではなにかと心配になる	.02	.12	.67	-.16	-.04	.25	2.88	1.23	
	将来の職業のことを考えると気が滅入ってくる	.18	-.18	.66	.08	.13	-.01	2.68	1.34	
	将来の職業を決めることに對して不安がある	-.03	-.01	.62	.20	.15	.01	2.96	1.24	
第IV因子 様々な選択肢 による迷い ( $\alpha=.92$ )	就職先を決めることのむずかしさを考えると不安になる	-.07	-.03	.57	.29	.08	-.11	2.96	1.25	2.68 (1.03)
	思わぬことで希望する職業につくことができないかもしれない不安である	.00	.23	.53	-.17	.04	.22	3.01	1.15	
	いろいろ考えすぎて、どの職業を選ばないかわからない	.01	-.05	.07	.87	-.02	.01	2.66	1.22	
	職業の選択肢がたくさんあるので、迷ってしまう	-.01	-.07	.06	.85	.02	-.07	2.65	1.18	
	いろいろ考えすぎて、自分に合う職業を決められない	-.10	.01	-.01	.84	.13	.07	2.77	1.27	
	いろいろなことに興味があるので、どの職業を選んだらいいのかわからない	.01	.16	-.07	.74	.00	-.03	2.78	1.28	
第V因子 不明瞭さ による回避 ( $\alpha=.83$ )	魅力ある職業がいくつもあるので、将来の職業を決められない	.20	.06	.05	.68	-.18	.04	2.43	1.18	2.58 (1.10)
	可能性のある将来の職業がたくさんあるので、どれにしたらよいかわからない	.02	.19	.29	.53	-.02	-.15	2.79	1.18	
	将来のことはわからないから、職業のことは考えたくない	.06	-.04	.15	-.04	.79	-.13	2.58	1.20	
	自分に何が向いているかわからないので、職業を決められない	.00	.10	.03	.14	.74	.02	2.58	1.18	
	将来の職業についての希望は明確なのだが、採用試験に自信がない	.03	-.08	.25	-.07	-.08	.91	2.75	1.17	
	具体的な将来の職業を考えているが、採用試験が心配である	-.02	.03	.28	.24	-.09	.42	2.95	1.27	
因子相関行列		I	II	III	IV	V	VI			
I		-	.61	.46	.61	.50	.41			
II			-	.50	.56	.50	.39			
III				-	.59	.41	.36			
IV					-	.59	.41			
V						-	.32			
VI							-			

とをしたいという思いや職業について考えたことがないことを表すため、『モラトリアム・逃避』( $\alpha=.92$ )と命名した。第II因子は「職業選択の問題は重要なことなので、親などと相談したい」「将来の職業について、親などと相談したい」などの6項目からなり、職業決定について親などに相談したいという思いを表すため、『身近な他者との相談希望』( $\alpha=.94$ )と命名した。第III因子は「将来、職業を決めることがうまくいかどうか不安である」「希望する職業への準備が十分であるのかどうか不安である」などの7項目からなり、職業を決定することへの不安を表すため、『不安』( $\alpha=.90$ )と命名した。第IV因子は「職業の選択肢がたくさんあるので、迷ってしまう」「可能性のある将来の職業がたくさんあるので、どれにしたらよいかわからない」などの6項目からなり、数多くある職業の中から1つに絞り込むことへの葛藤や迷いを表すため、『様々な選択肢による迷い』( $\alpha=.92$ )と命名した。第V因子は「将来のことはわからないから、職業のことは考えたくない」「自分に何が向いているかわからないので、職業を決められない」の2項目からなり、将来のことや自分に向いていることについてわからないため、職業選択に取り組めないでいることを意味することから『不明瞭さ



による回避』( $\alpha=.83$ )と命名した。第VI因子は「将来の職業についての希望は明確なのだが、採用試験に自信がない」「具体的な将来の職業を考えているが、採用試験が心配である」の2項目からなり、希望する職業はあるものの採用試験に対する不安を表すため、『採用試験不安』( $\alpha=.80$ )と命名した。

また、各項目の回答は5段階評定で求めたため、各因子の平均値が3を超えると、職業選択・決定における心理状態を表すキャリア意思決定について「当てはまる」と回答した中国人私費留学生が多いことを表す。各因子の平均値において、いずれも平均値が3を超える因子は見当たらなかったが、『不安』の平均値が概ね3に等しく( $M=2.99, SD=0.97$ )、本研究の対象者は、将来の職業を決めることに不安を抱えたり、何かの影響で希望する職業につくことができなくなるのではないかと心配する様子が見られた。さらに、下位項目において、平均値が最も高いのは、『不安』の項目の「希望する職業への準備が十分であるかどうか不安である」( $M=3.23, SD=1.16$ )であった。つまり、本研究における中国人私費留学生は、将来の職業を選択したり決定するにあたって、希望する職業はあるものの、それへの準備が十分であるかどうかについて不安を抱えている傾向があると言える。留学生が希望する職業に関連する情報を提供することや留学生が就職活動のための事前準備がしっかりできるように、大学のキャリア教育や制度を整えていく必要性が浮き彫りになった。

### 3.2 将来のキャリア志向に関する因子分析の結果

中国人私費留学生の将来のキャリア志向の構造を明らかにするために、因子分析を行なった。因子分析は3.1と同様の手続きで行った。その結果、5因子が抽出された(表3)。

表3 将来のキャリア志向の因子分析結果

		I	II	III	IV	V	項目 平均値	項目 標準偏差	因子平均値 (標準偏差)
第I因子 起業志向 ( $\alpha=.90$ )	中国で起業したい	.92	-.04	-.23	.04	.01	2.24	1.29	2.18 (1.18)
	日本で起業したい	.90	-.11	.21	-.06	-.11	2.19	1.29	
	中国と日本以外の第三国で起業したい	.74	.05	-.05	-.03	.31	2.10	1.30	
第II因子 将来への不透明感 ( $\alpha=.63$ )	将来の仕事についてはまだ決められない	-.05	.84	-.21	-.04	-.03	2.89	1.24	2.64 (1.02)
	将来の見通しを持っていないため、将来の仕事が漠然として	-.08	.58	.20	.03	.11	2.39	1.16	
第III因子 日本での就職志向 ( $\alpha=.62$ )	日本でとりあえず就職したい	-.16	-.16	.82	-.18	.21	3.21	1.23	2.64 (1.03)
	どんな企業でもいいので日本で就職したい	.16	.22	.62	.19	-.10	2.07	1.18	
第IV因子 中国での就職志向 ( $\alpha=.58$ )	中国で日本留学の経験を活かせる会社に就職したい	-.04	-.10	-.20	.93	.16	3.45	1.24	3.14 (1.02)
	中国で日本企業に就職したい	.00	.22	.14	.50	-.10	2.84	1.19	
第V因子 第三国志向 ( $\alpha=.72$ )	中国と日本以外の第三国の大学院に進学したい	.01	-.10	.19	.18	.70	2.22	1.34	2.23 (1.19)
	中国と日本以外の第三国で就職したい	.22	.20	.02	-.11	.62	2.23	1.35	
因子相関行列		I	II	III	IV	V			
		I	-.25	.43	.01	.57			
		II		-.55	.20	.09			
		III			-.05	.14			
		IV				.14			
		V							

第Ⅰ因子は「中国で起業したい」「日本で起業したい」などの3項目からなり、将来、中国や日本で起業することを希望するため、『起業志向』( $\alpha=.90$ )と命名した。第Ⅱ因子は「将来の仕事についてはまだ決められない」「将来の見通しを持っていないため、将来の仕事が漠然としている」の2項目からなり、将来の仕事に対して漠然としており、まだ決められないことを表すため、『将来への不透明感』( $\alpha=.63$ )と命名した。第Ⅲ因子は「日本でとりあえず就職したい」「どんな企業でもいいので日本で就職したい」の2項目からなり、将来、日本で就職することを希望するため、『日本での就職志向』と命名した。第Ⅳ因子は「中国で日本留学経験を活かせる会社に就職したい」「中国で日本企業に就職したい」の2項目からなり、将来、中国で就職することを希望するため、『中国での就職志向』( $\alpha=.58$ )と命名した。第Ⅴ因子は「中国と日本以外の第三国の大学院に進学したい」「中国と日本以外の第三国で就職したい」の2項目からなり、将来、中国や日本以外の第三国で進学したり、就職したりすることを希望するため、『第三国志向』( $\alpha=.72$ )と命名した。

また、キャリア意思決定と同様に、各項目の回答は5段階評定で求めたため、因子の平均値が3を超えると、将来のキャリア志向として「当てはまる」と回答した中国人私費留学生が多いと考えられる。各因子の平均値において、最も高いのは『中国での就職志向』( $M=3.14, SD=1.02$ )であった。さらに、下位項目において、平均値が最も高いのは、『中国での就職志向』の項目の「中国で日本留学の経験を活かせる会社に就職したい」( $M=3.45, SD=1.24$ )であった。つまり、本研究における中国人私費留学生の多くは、大学や大学院を卒業・修了後、中国で就職することを希望することがわかった。これは、日本学生支援機構(2020)による「2018(平成30)年度外国人留学生進路状況・学位授与状況調査結果」や日本語学校に在籍している中国人私費留学生を対象にした黄(2019)の結果と一致する。日本における「高度外国人材」の受け入れが叫ばれて久しいが、現状では、留学生の約6割が日本で就職を希望しても、実際に卒業後、就職しているのは2-3割にとどまっており、大きなトレンドはここ10年間で変わっていない(文部科学省, 2019; 日本学生支援機構, 2019; 2020など)。留学生は日本での就職活動において「企業に外国人材の採用意思があるかわからない」「日本の就職活動のルールがわからない」「日本語による適性試験や能力試験が難しい」などの困難を抱えている(総務省, 2016)。そのため、本研究における中国人私費留学生も日本で大学や大学院を卒業・修了してから中国で日本留学の経験を活かせる会社に就職することを最も多く希望しているのではないだろうか。

### 3.3 アルバイトの経験とキャリア意思決定が将来のキャリア志向に及ぼす影響

中国人私費留学生のアルバイトの経験と所属、キャリア意思決定が将来のキャリア志向に及ぼす影響を調べるために、キャリア意思決定とアルバイトの経験、所属を独立変数、将来のキャリア志向を従属変数とする、ステップワイズ法による重回帰分析を行った(表4)。アルバイトの経験については、それぞれの職種において「アルバイトの経験がない」を統制群とし、「コンビニ・スーパーのレジ経験ダミー(無0, 有1)」

表4 アルバイトの経験とキャリア意思決定、将来のキャリア志向の関連

		将来のキャリア志向				
		起業志向	将来への 不透明感	日本での 就職志向	中国での 就職志向	第三国志向
キャリア意思決定	モトリアム・逃避	.11	.15	.30 **	-.05	.09
	身近な他者との相談希望	.02	.07	.01	.08	.03
	不安	-.33 **	.30 **	.06	.04	-.20
	様々な選択肢による迷い	.56 ***	.24 *	.13	.19 *	.34 ***
	不明瞭さによる回避	-.08	.47 ***	.04	.11	.13
	採用試験不安	.06	-.30 **	.09	.02	.08
アルバイトの経験	コンビニ・スーパーのレジ経験ダミー	-.04	.08	.14	-.07	-.04
	飲食店・ファーストフード店の経験ダミー	-.06	-.08	-.03	.22 *	-.04
	中小企業・商社の事務経験ダミー	.29 **	.03	.04	.06	.13
	中国語などの語学講師経験ダミー	.03	.01	-.02	-.09	.03
所属	学部ダミー	.11	-.03	.13	.19	.19 *
	博士前期課程ダミー	.00	.05	-.06	.26 **	.11
$R^2$		.23 ***	.56 ***	.09 **	.16 **	.15 ***

\*\*\* $p < .001$  \*\* $p < .01$  \* $p < .05$  (数値は標準偏回帰係数)

「飲食店・ファーストフード店の経験ダミー（無0，有1）」「中小企業・商社の事務経験ダミー（無0，有1）」「中国語などの語学講師経験ダミー（無0，有1）」を用いた。また、所属については、「博士後期課程」を統制群とし、「学部ダミー（博士後期課程0，学部1，博士前期課程0）」「博士前期課程ダミー（博士後期課程0，学部0，博士前期課程1）」を投入した。表中の数字は標準偏回帰係数（ $\beta$ ）、 $R^2$ は決定係数である。

まず、将来のキャリア志向の『起業志向』には、キャリア意思決定の『不安』が負の影響、『様々な選択肢による迷い』が正の影響、アルバイトの経験の「中小企業・商社の事務経験ダミー」が正の影響を与えていた。つまり、将来の職業を選択・決定するにあたり不安はないが、職業の選択肢がたくさんあり迷ってしまうことがあり、中小企業や商社において事務のアルバイトの経験がある場合、将来のキャリアとして中国や日本などで起業したいと考えることを表す。

次に、将来のキャリア志向の『将来への不透明感』には、キャリア意思決定の『不安』『様々な選択肢による迷い』『不明瞭さによる回避』が正の影響、『採用試験不安』が負の影響を及ぼしていた。これは、職業を決めることに不安や葛藤を抱えたり、自分に何が向いているのかわからないことがあるが、採用試験についてはあまり不安を感じない場合、将来のキャリアについて見通しを持っていないことを意味する。

また、将来のキャリア志向の『日本での就職志向』には、キャリア意思決定の『モトリアム・逃避』が正の影響を及ぼしていた。つまり、「職業のことなど考えずに、自分の好きなことに集中したい」と思う場合、将来のキャリアとして「日本で就職したい」と考えている様子が見られた。

さらに、将来のキャリア志向の『中国での就職志向』には、キャリア意思決定の『様々な選択肢による迷い』が正の影響を与えていた。また、アルバイトの経験の「飲食店・ファーストフード店の経験ダミー」が正の影響、所属の「博士前期課程ダミー」が正



の影響を及ぼしていた。これは、「可能性のある将来の職業がたくさんあるので、どれにしたらよいかわからない」と考え、飲食店やファーストフード店でアルバイトをした経験がある場合、また、博士前期課程の学生は博士後期課程の学生に比べて、大学院を修了後中国で日本留学経験が活かせる企業に就職したいと考える傾向があることを意味する。

最後に、将来のキャリア志向の『第三国志向』には、キャリア意思決定の『様々な選択肢による迷い』が正の影響、所属の「学部ダミー」が正の影響を与えていた。つまり、将来の職業を選択・決定するにあたり「職業の選択肢がたくさんあるので、迷ってしまう」などの葛藤を抱えている場合、また、学部生は博士後期課程の学生に比べて、将来のキャリアとして「中国や日本以外の第三国」に進学したり就職したりすることを選択しやすいことを表す。

#### 4. まとめと総合的考察

本研究では、中国人私費留学生を対象にアルバイトの経験と将来の正規の職業を選択・決定する過程における心理状態を表すキャリア意思決定、将来のキャリア志向について調査を行った。また、アルバイトの経験と中国人私費留学生の所属、キャリア意思決定が将来のキャリア志向に及ぼす影響について明らかにした。ここでは、まず、因子分析の結果についてまとめ、次に、重回帰分析の結果を中心に総合的考察を行う。

まず、因子分析の結果についてまとめる。中国人私費留学生のキャリア意思決定について、『モラトリアム・逃避』『身近な他者との相談希望』『不安』『様々な選択肢による迷い』『不明瞭さによる回避』『採用試験不安』の6因子が抽出された。しかし、各因子においていずれも平均値3を超える因子はなく、本研究の対象者が将来の職業を選択したり決定したりする心理状態において、不安や葛藤を抱えたり、親などの身近な他者に相談したり、将来の職業を考えることから一時逃避したりすることをあまり選択しないと考えられる。また、将来のキャリア志向について、『起業志向』『将来への不透明感』『日本での就職志向』『中国での就職志向』『第三国志向』の5因子が得られた。その中で、特に『中国での就職志向』を持ちやすいことがわかった。さらに、中国で就職する際には日本での留学経験が活かせる会社や日本企業に就職したいとしており、帰国後も日本との関わりを持ち続けようとする様子が窺えた。

次に、重回帰分析の結果を中心に考察を行う。第一に、キャリア意思決定の『モラトリアム・逃避』は、将来のキャリア志向の『日本での就職志向』に正の影響を与えていた。将来の職業について、「職業のことなど考えずに、自分の好きなことに集中したい」「今まであまり職業のことをまじめに考えたことがない」と認識する場合、大学や大学院を卒業・修了してから「日本で取りあえず就職したい」「どんな企業でもいいので日本で就職したい」と考える傾向が示された。中国人が日本に留学する理由として、進んだ高等教育を求めるほかに、経済高度成長による家庭所得の増加、一人っ子を中心とする家庭構成による海外留学の経費支弁能力の向上(李, 2016)、および中国国内における高等教育普及による就職難(奥山・笹倉, 2019; 蔡, 2011; 登坂, 2007

など)があるとされている。つまり、中国人私費留学生は日本への留学についてそれほど明確な目標がなく、また、日本での留學生活が終了してからのキャリアや職業について具体的に考えていない場合、中国社会における就職難を逃れるため、就職先として日本を視野に入れ、「日本で取りあえず就職したい」と考える様子が窺えた。

第二に、キャリア意思決定の『不安』は、将来のキャリア志向の『起業志向』に負の影響、『将来への不透明感』に正の影響を与えていた。将来の職業を決定することに対して不安を感じない場合、日本で留學を終え、将来は「中国や日本、または第三国で起業したい」と考える傾向が示された。中国における新規大学卒業者の就職に関して、卒業しても就職が決まらなかった場合の進路として「自立起業」を選ぶことがある(徐・来島, 2006)。本研究の対象者の場合、将来の職業の決定や希望する職業への準備について不安を感じないのは、自立起業を視野に入れているからではないだろうか。一方、「将来、職業を決めることがうまくいかどうか不安である」と考えている場合、将来のキャリアについては見通しを持っておらず、将来の仕事が漠然としていると捉える傾向が示された。将来の職業を決めることに不安を感じる場合、あえて進路選択を避けることが考えられ、それによって進路選択に対する自己効力感が下がり、将来のキャリアについてははっきりした選択ができないのではないだろうか。

第三に、キャリア意思決定の『様々な選択肢による迷い』は、将来のキャリア志向の『起業志向』『将来への不透明感』『中国での就職志向』『第三国志向』に影響を与えていた。特に、『様々な選択肢による迷い』が『起業志向』( $\beta=.56, p<.001$ )と『第三国志向』( $\beta=.34, p<.001$ )に及ぼす影響が大きかった。「いろいろ考えすぎて、どの職業を選べばよいのかわからない」ことや「職業選択肢がたくさんあるので、迷ってしまう」と考えている場合、将来のキャリアとして日本や中国、または日本と中国以外の第三国で起業することや第三国で進学、就職したいと考えている傾向が示された。北中(2015)の調査によると、多くの中国の若者たちは、中国国内での就職をより有利なものにすることや海外の企業での就職という人生の選択肢を広げることを夢見てアメリカを目指しており、中国の多くの留學仲介業者はアメリカ留學について、就職の有利性をうたった広告を展開しているという。つまり、中国人学生は日本に留學をしたものの、将来の職業選択・決定について様々な選択肢に迷い、起業することや中国での就職、第三国での就職等の間で揺れていることが推測される。

第四に、キャリア意思決定の『不明瞭さによる回避』と『採用試験不安』は、将来のキャリア志向の『将来への不透明感』に影響を与えていた。将来の職業に関して、「将来のことはわからない」ことや日本における採用試験には不安を抱えないが「将来の職業について具体的に考えていない」場合、「将来の見通しを持っていないため、将来の仕事が漠然としている」と捉えていることがわかった。職業選択・決定においてどのように職業を決定すればいいのかわからなかったり、職業について明確な希望がなく具体的に考えていなかったりする場合、将来のキャリアについての見通しを持つことが難しいことが考えられる。

第五に、アルバイトの経験の「飲食店・ファーストフード店の経験」は将来のキャ

リア志向の『中国での就職志向』に影響を及ぼし、「中小企業・商社の事務経験」は将来のキャリア意識の『起業志向』に影響を与えていた。徐・阿部（2012）によると、日本で留学を終え中国に帰国して企業に就職した中国人元留学生は、日本での留学生活で身につけた日本語力、コミュニケーション能力が仕事に活かされていると高く評価しているとしている。これまでに、中国人留学生がアルバイト活動を通して日本語能力が向上したことを肯定的に捉えていることは、様々な研究により検証されている（小島, 2003 ; 譚・渡邊・今野, 2009 など）。また、飲食店やファーストフード店でアルバイトに従事する際には、年齢層やバックグラウンドが様々な利用客とのやりとりを行う場合があり、それによってコミュニケーション能力が向上することが考えられる。つまり、飲食店やファーストフード店でアルバイトをした経験のある人はない人に比べ、日本的なサービスを学んだことや日本人とのコミュニケーションに自信を持っていると考えられ、帰国後日系企業や日本と事業関連のある会社に就職することを意識しやすいのではないだろうか。さらに、中小企業や商社の事務のアルバイトに関しては、金銭面での肯定感を得たと捉えやすく（黄, 2020）、企業内での職務経験を通して、起業のイメージができたり、そのノウハウを身につけたりした可能性がある。そのことにより、将来、日本や中国または第三国で起業したいと考えることに繋がったと推測できる。

最後に、所属の「学部」は将来のキャリア志向の『第三国志向』に、「博士前期課程」は将来のキャリア志向の『中国での就職志向』に影響を及ぼしていた。学部生は博士後期課程の学生に比べて、将来、中国や日本以外の第三国に進学したり、就職したりすることを希望する傾向があることがわかった。これは、外国人留学生進路状況調査（日本学生支援機構, 2020）の結果において、留学生が日本で学業を終えてからの進路として、日本・出身国（地域）以外に「進学」する割合が、学部生の1.6%に対して博士後期課程の学生はわずか0.2%に留まっていることと一致するものである。また、博士前期課程の学生は博士後期課程の学生に比べて、将来、中国で日系企業や日本留学経験が活かせる会社に就職したいと考えている傾向が見られた。大学院博士後期課程ではより高度な専門知識を極められ、博士後期課程修了後はその専門知識を活かせる大学や研究所などへの就職を希望する傾向が強いと考えられる。しかし、外国人留学生は日本で博士号を取得しても、日本で専門知識を活かせる機関に就職することが難しい（黄, 2021）とされている。そのため、本研究の対象者においても、博士後期課程の学生は日本への留学を終えてから中国に帰国し、大学や研究所などで専門知識を活かせる仕事につきたいと考えているが、企業等に就職したいとは考えていないのではないだろうか。

以上のように、本研究では、大学や大学院に在籍している中国人私費留学生はアルバイトの経験や所属、および将来の職業を選択・決定する過程における心理状態の違いにより、将来従事しようとする仕事に対するキャリア志向が異なることがわかった。特に、将来の職業の選択や決定に関しては、不安や葛藤を抱えたり、その状況から逃避したり、自分自身に猶予を与えたりする心理状態が見られた。しかし、このような

心理状態は必ずしも将来のキャリア志向に否定的な影響を与えることではなく、その中でも将来のキャリアについて様々な選択を行っている様子が窺えた。将来の進路や職業を決めるといふ活動に関わり合うことができるかどうかという心理状態を示す「キャリア意思決定」は一定的なものではなく、日本での留学生生活が終わる時期や就職活動を行う時期などに合わせて常に変化するものと考えられる。また、アルバイトの経験も将来のキャリア志向に影響を与えており、留学生がアルバイト活動を行う際に、将来のキャリアを見据えた職種を選ぶようなキャリア教育や支援の必要性が浮き彫りになった。

## 5. 今後の課題

昨今の新型コロナウイルス感染症による影響で、アルバイトの時間数が制限されたり退職を余儀なくされたりすることがあり、中国人私費留学生が従事するアルバイトの職種などに変化が見られる可能性がある。今後は、このような時代の変化を踏まえた調査を進めていきたい。また、本研究の対象者は大学や大学院に在籍している中国人私費留学生に限定したため、対象者に偏りがある。今後は、学習内容や学習環境がそれぞれ異なる日本語学校と大学に在籍している中国人私費留学生の比較や私費留学生と国費留学生の比較検討も行いたい。

## 参考文献

- 蔡 純青 (2011) 「中国における学歴格差社会」『専修大学社会科学研究所月報』 581, 32-58.
- 花井洋子・清水和秋 (2007) 「キャリア不決断の安定性と変化—キャリア意思決定の縦断的因子分析モデルと構造平均解析から—」『日本心理学大会発表論文集』 71 (0), 3PM100.
- 黄 美蘭 (2015) 「アルバイトの目的とアルバイトを通して得た肯定感—中国人女子私費留学生の場合—」『お茶の水女子大学人文科学研究』 11, 125-134.
- 黄 美蘭 (2018) 「中国人男子私費留学生のアルバイト経験とキャリア意識」『お茶の水女子大学人文科学研究』 14, 169-181.
- 黄 美蘭 (2019) 「アルバイトの目的と将来のキャリア意識がアルバイトの肯定感に及ぼす影響—中国人日本語学校生の場合—」『日本語研究』 39, 1-14.
- 黄 美蘭 (2020) 「アルバイトの目的と職種がアルバイトの肯定感に及ぼす影響—大学・大学院の中国人私費留学生の場合—」『異文化間教育』 51, 85-104.
- 黄 美蘭 (2021) 「アルバイトの目的とアルバイトの肯定感及び将来のキャリア意識—中国人日本語学校生と大学・大学院生の場合—」『お茶の水女子大学人文科学研究』 17, 39-52.
- 加賀美常美代 (2008) 「日韓の女子大学生の国際交流意識とキャリア形成の比較：お茶

- の水女子大学の国際意識調査から」『お茶の水女子大学人文科学研究』4, 107-123.
- 北中朝子 (2015) 「中国の教育制度と留学事情」『CLAIR REPORT』427, 自治体国際化協会.
- 小島祐子 (2003) 「学習リソースとしてのアルバイト—就学生を対象として—」『桜美林国際学論集 Magis』8, 199-213.
- 厚生労働省 (2020) 『『外国人雇用状況』の届出状況のまとめ【本文】(令和元年10月末現在)』 <https://www.mhlw.go.jp/content/11655000/000590310.pdf> <2021年2月2日アクセス>.
- 小柴 薫・高橋恵理子・根建金男 (2016) 「大学生のキャリア選択に対する認知的評価と自己効力感が進路意思決定の難しさ、主観的幸福感に及ぼす影響」『早稲田大学臨床心理学研究』16 (1), 65-77.
- 李 敏 (2016) 「中国人留学生の日本留学決定要因に関する研究—Push-and -Pull モデルに基づいて—」『広島大学高等教育開発センター大学論集』48, 97-112.
- 三保紀裕・花井洋子・清水和秋 (2009) 「大学生の『将来実現させたいこと』とキャリア意思決定の関連」『日本教育心理学会総会発表論文集』51 (0), 117.
- 文部科学省 (2019) 「外国人留学生の就職促進について—留学生の採用・定借における現状・課題」 <http://www.moj.go.jp/content/001306003.pdf> <2021年4月4日アクセス>.
- 村越 彩 (2011) 「日本語学校に通う学生の進路選択自己効力に影響を及ぼす進路サポート—中国人学生と韓国人学生の特徴—」『異文化間教育』34, 75-89.
- 日本学生支援機構 (2016) 「平成27年度私費外国人留学生生活実態調査概要」 [https://www.studyinjapan.go.jp/ja/\\_mt/2020/08/seikatsu2015.pdf](https://www.studyinjapan.go.jp/ja/_mt/2020/08/seikatsu2015.pdf) <2017年8月8日アクセス>.
- 日本学生支援機構 (2019) 「平成29年度私費外国人留学生生活実態調査概要」 [https://www.studyinjapan.go.jp/ja/\\_mt/2020/10/seikatsu2017.pdf](https://www.studyinjapan.go.jp/ja/_mt/2020/10/seikatsu2017.pdf) <2021年2月2日アクセス>.
- 日本学生支援機構 (2020) 「2018(平成30)年度外国人留学生進路状況・学位授与状況調査結果」 [https://www.studyinjapan.go.jp/ja/\\_mt/2020/09/date2018sg.pdf](https://www.studyinjapan.go.jp/ja/_mt/2020/09/date2018sg.pdf) <2021年2月2日アクセス>.
- 西 宏樹・柳澤さおり (2010) 「大学生のアルバイトの活動を通じた学習—アルバイトの目標と活動の意識化の効果—」『中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要』42, 285-292.
- 岡村郁子 (2013) 「帰国高校生の「帰国経験を活かす」ことに対する意識とその関連要因—キャリアとしての帰国経験の検討—」『お茶の水女子大学人文科学研究』9, 145-156.
- 奥山和子・笹倉孝之 (2019) 「中国人大学院留学生の日本における就職行動と構造—な



- 「中国の大学院に進学しなかったのか」『教育科学論集』22, 21-29. 関口倫紀 (2010)  
「大学生のアルバイト経験とキャリア形成」『日本労働研究雑誌』52 (9), 67-85.  
関口倫紀 (2010) 「大学生のアルバイト経験とキャリア形成」『日本労働研究雑誌』52 (9), 67-85.  
清水和秋・花井洋子 (2007) 「キャリア意思決定尺度の開発—その1: 大学生を対象にした探索的因子分析からの尺度構成—」『関西大学社会学部紀要』38 (3), 97-118.  
総務省 (2019) 「高度外国人材の受入れに関する政策評価書」  
[https://www.soumu.go.jp/main\\_content/0006277735.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_content/0006277735.pdf) <2021年4月4日アクセス>.  
譚 紅艶・渡邊 勉・今野裕之 (2009) 「動機づけの自己決定性が在日中国人留学生・就学生の仕事満足感に及ぼす影響」『目白大学心理学研究』(5), 117-123.  
登坂 学 (2007) 「中国における高等教育普及と就職難」『九州保健福祉大学研究紀要』8, 35-44.  
徐 亜文・阿部康久 (2012) 「日本留学経験が就職活動とキャリア形成に与える効果に関する研究—中国人帰国留学生を事例として—」『九州大学留学生センター紀要』20, 67-83.  
徐 亜文・来島 浩 (2006) 「中国における新規大学卒業者の就職難の実態—山東省の事例を中心に—」『山口大学教育学部研究論叢 (第1部) 人文科学・社会科学』56 (1), 77-105.

【付記】 本研究はJSPS 科研費 JP16K16863 の助成を受けたものです。

(こう びらん・東京都立大学国際センター)